



みやこ

京まなびい ニュースレター

Newsletter

京都市教育委員会事務局生涯学習部

～学びやコミュニケーションが広がる～

スマートフォン(スマホ)を楽しく使おう!



スマートフォン(スマホ)は、便利そうだけれど、使いこなせないと感じている方が多いのではないのでしょうか。そこで今回は、京都市で行っている「スマートフォン教室」を御紹介します。

京都市×ソフトバンク連携事業^(※) 上京区役所スマートフォン教室

ソフトバンクスマホアドバイザーによる、初めての方向けの「スマートフォン体験講座」(無料)を見学してきました。わかりやすい内容で、終わる頃には「楽しかった!」という感想をたくさんいただきました。

ポイント① 基本の用語から教えてくれる!

スマホはガラケーとどこが違うの?アプリって何?という基本的な内容を、身近なものに例えてわかりやすく説明します。

ポイント② スマホを持っていない人も、操作を試せる!

操作説明書を読んでもわからない...ということはありませんか?やはり自分でやってみることが上達の近道!1人1台貸出機を使い、画面への指のタッチの仕方から、カメラ、音声入力など便利な機能を試すことができます。

ポイント③ 操作がわからなくなったらすぐに聞ける!

ソフトバンクのスタッフのサポートにより、「操作を間違えた」というときも、素早く丁寧に教えていただけます。



スマホの電話やメールしか使っていませんでした。いろんな機能があることを知ったので、これから利用の幅を広げたいです。



初めてスマホを触り、思ったより簡単に楽しかったです。使い始めたら、いろいろ試したくて、いっぱい使いそうです。

スマホアドバイザーからメッセージ



わからないから「もういいや!」とあきらめてしまおうとそれ以上できなくなるので、まずは恐れずスマホをたくさん触ってほしいです。そして、スマホは楽しいなと感じてもらえると嬉しいです。



スマホアドバイザー 石毛 孝尚 さん (ソフトバンク修学院店)

困ったときは、携帯電話会社のプロや家族・友人に尋ねたり、スマホで検索したりして、少しずつ慣れていきましょう。

スマホ講座の予定 ^(無料)	開催日	申込期間
北区役所 (☎432-1199) 申込 京都いつでもコール ☎661-3755	1月23日(月)	12月16日(金)~27日(火)
	3月14日(火)	2月17日(金)~28日(火)
右京区役所 (☎861-1264)	12月12日(月)	12月1日(木)まで
	1月17日(火)	12月2日(金)以降 要相談
	2月14日(火)	
伏見区役所 (☎611-1144) 申込 京都いつでもコール ☎661-3755	1月20日(金)	12月20日(火)~27日(火)
	2月 3日(金)	1月5日(木)~12日(木)

全ての日程について、10時~12時 入門講座、13時半~15時半 活ラインやズームなどの活用講座です。

詳細については、記載の各区役所へお問合せください。

スマートフォン講座 京都市



※京都市×ソフトバンク連携事業

地域活動におけるコミュニケーションの円滑化やデジタルデバインド(情報格差)の解消を目的として、京都市とソフトバンク株式会社が、「地域コミュニティ活性化のためのデジタル化推進」に係る連携協定を令和3年7月に締結。これに基づきスマートフォン講座を実施しています。

京都市社会教育委員のコラム

まなびいの つぼ

京都市社会教育委員

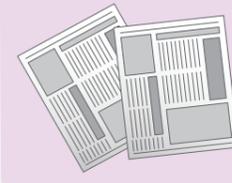
いしかわ いちろう

石川 一郎氏 (京都新聞社滋賀本社代表・編集局長)



石川 一郎氏 プロフィール

1990年、京都新聞入社。京都本社編集局、東京支社、北部総局(福知山市)、論説委員室などを経て2022年4月より4度目の滋賀本社勤務。調べ物などで京都市や滋賀県の図書館によく足を運んでいる。



職業柄、文章をうまく書くコツを尋ねられることがある。なかなか難問である。経験的に言うと、その人ならではの体験や考え方にじみ出ている文章は、読み手の気持ちをとらえやすい。何かのレポートなら、しっかり調べたり考えたりした跡がうかがえる記述は説得力が高い。新聞記事でも、十分な取材を尽くし「足で稼いだ」原稿は、読者の共感を得やすいと感じる。

文章は「内容が8割」とも言われる。書くという行為がコミュニケーションの手段である以上、表現の巧拙よりも、取り上げたテーマそのものが読み手に強い印象を与えるのは自然なことだ。

それでも、読みやすい文をつくる訓練法はある。これもつたない経験からではあるが、よい文章を筆写し、文体をまねる練習が効果的だ。

若い頃、新聞社の入社試験に備えて作文のにわか勉強を始めたが、書きたいことがうまく言い表せず、支離滅裂な文章にすっかり自己嫌悪に陥ってしまったことがあった。

そんな折、人に勧められて試したのが新聞コラムの筆写だった。当時購読していた全国紙の1面コラムを毎日、原稿用紙に書き写す。最初は文字を並べるだけだったが、そのうちに、コラム筆者の息づかい、文を構成するリズムが体に染み渡ってくるようになった。

後に論説委員の仕事をするようになって、新聞コラムは内容の当否だけでなく、あいまいな言い回しや言葉の重複などの「無駄」を極力そぎ落として作り上げていることを知った。若き日の筆写訓練は、けっこう良い素材を使っていたことになる。

書いた文章を第三者に読んでもらうことも重要だ。自分ではうまく書けたつもりでも、意味が通らなったり、考え方が独りよがりになり陥っていたり、という指摘を受けることは少なくない。昨今、SNSへの投稿がよく「炎上」するのも同じ構造なのだろう。

新聞社にはデスクと呼ばれる原稿のチェック役がいる。自分とは異なる目線で助言してくれる「友」を持つことは、よい文章を書くために重要かもしれない。

委員からのメッセージ

良い文章は、良き友と
石川 一郎

社会教育委員って? 各分野の専門的な立場から、家庭・地域の教育力の向上や京都の豊かな学習資源の活用についてなど、京都市の生涯学習について話し合い、教育委員会に助言を行います。(現在17名)

「京(みやこ)まなびいニュースレター」についての問合せ先

京都市教育委員会事務局生涯学習部 生涯学習推進担当
京都市中京区富小路通六角下る骨屋之町549 (元生祥小学校)
TEL: 075-251-0410 FAX: 075-213-4650 メールアドレス: shogaigaku@edu.city.kyoto.jp



紙面への感想をメールやFAXでお寄せください。